

豊潤の里 だより

赤土の叫び(2)

産廃処分場建設反対実行委員会 顧問 大成秀和 (赤崎在住)

風評被害について

知人のカキ養殖業者から聞いた話です。

「今から十数年前に、某民放 TV が全国放送で『二枚貝にノロウイルスが発生した』と放映した。そのことでカキが売れにくくなった。しかもカキの取引値段が暴落し、困った」

とのことでした。このことは、まさに「風評被害」そのものだと思います。風評被害は不確かな噂や科学的根拠に基づかないデマ等によって被害を受けることです。主に経済的被害を指しますが、風評を受けた人への人権侵害にも発展する恐れがあります。

最終処分場が赤崎に建設されることで、「負のイメージ」(有害物質が含まれることはないか、基準以外のものが搬入されるのではないか、農水作物に悪い影響を与えているのではないか等)を感じてしまう人は少なくないと思います。その負のイメージが、経済的被害のみならず地域への偏見やイメージダウンにも発展する恐れはないでしょうか。

だれも、どこも要らない産業廃棄物が、例え法令上の安全基準を満たして処分場が施工されたとしても、膨大な量(88.9万 m^3)が基盤工事の上に埋められ、覆土をしてもその高さは60m超になるとのことです。赤土の中に産業廃棄物が埋められるのは「事実」です。その事実から、風評被害が発生しないかと気をもむのは、私の杞憂でしょうか。

我が故郷、母なる赤崎、一度埋め立てられた産業廃棄物は二度と撤去することは不可能に近く、二度ともとの大地には戻りません。産業廃棄物は要りません。処分場建設に反対するのは、「赤崎で生まれ、育ち、暮らしている私の大義です」。約7700筆の反対署名の方々とともに、引き続き処分場建設反対にご支援下さいますよう、よろしく願いいたします。最後まで読んでくださり、ありがとうございます。感謝です。

広島県から4回目の指導。民間産廃業者 JAB協同組合(東京)が設置した本郷処分場から出た水が、汚れ具合を示す指標(BOD)基準値の7.5倍にのぼったためです。県は、廃棄物の搬入や埋め立てを中止するように指導しました。県は、「たびかさなる行政指導に至ったことを極めて重大かつ深刻に受け止めている。業者には厳しく指導し、改善が見られない場合は行政処分を検討していく」とコメントを出しています。

木谷の産廃処分場計画は、民間業者が「建設推進委員会」を立ち上げ、土地取得に向け巧妙に動いています。土地が業者の手に渡らないよう取り組んでいます。ご支援をお願い致します。



【赤崎のジャガイモ畑】

木谷小学校創立150周年を祝う

木谷小学校は昨年創立150周年を迎え、今年10月27日、在校生や卒業生、元校長など関係者約200名が出席して祝賀行事(式典と記念イベント)が催されました。



式典に先立ち、児童・保護者・地域の人による「バルーンリリース」(風船飛ばし)が行われました。歓声とともに風船はまとまったまま無風状態の空に高く舞い上がり、どこまでも上昇していくかのような様子でした。参加者は遠ざかる風船を、見えなくなるまで眺め見送りました。



この日のために作られた『あたたかい絆』を児童全員で合唱しました。この歌は令和5年度に子どもたちが作詞し、中谷浩子校長が作曲したものです。海が見える教室や運動場でも、ジャガイモの花が咲く地域のなかでも、子ども達の笑顔と元気な声は、これからもずっと続いていくという内容です。



5・6年生で構成する蛟龍太鼓18代目「迪龍」による渾身の演奏。息の合った力強い太鼓の音が聴く人を魅了しました。なお、漢字の迪は“道”に通じ、進むとか導くなどの意味があるそうです。



「劇団あらむ」による朗読劇『望郷の海』は、今から220年ほど前の史実に基づくドラマ。木谷村の廻船業・元屋の船が遠州灘で遭難し漂流の後、外国船に救助されハワイに滞在。その後、中国(広東・マカオ)やジャワなどを経由する苦難の旅の末、約2年後に木谷村へ帰れたのは善松ひとりでした。

田中孝興さんと木谷出身の田中由美子さん夫妻「タカとトット」のコンサートは、みんなで歌う曲で盛り上がりました。タカさんが叩くアフリカの太鼓に合わせ、子ども達が踊りだす場面もありました。

華を添える安芸津中吹奏楽部 ～福寿の会～



10月5日、長年にわたり戦後の木谷地域の発展を支えていただいた方々の長寿をお祝いする「福寿の会」が開かれ、69名の参加がありました。木谷小5・6年生は蛟龍太鼓の力強い演奏、3・4年生は作文の発表、1・2年生はおじいちゃん・おばあちゃんの似顔絵を描いて会場に掲示。若い世代の「はつらつ会」は「いきいき体操」で参加者を和ませました。今回は安芸津中学校の17名の吹奏楽部員が生演奏で催しに華を添えてくれました。演奏曲は多くの人に親しまれている「手のひらに太陽を」「名探偵コナン メインテーマ」「世界に一つだけの花」でした。

(主催：福寿の会実行委員会・木谷自治協議会)

祭りをもっと賑やかに ～木谷フェスティバル～

10月20日、さわやかな秋空のもと、重松神社の例祭が挙行政され、大名行列は挟み箱・奴を先頭に笛・太鼓の囃子、神輿や子ども神輿が御旅所のある砂原公園を目指しました。



重松神社を出発して約40分後、砂原公園に到着しその中を一周するように、露店と飲食コーナーの間を御旅所に向かいました。それまで行列を見物していた人たちも公園内のフェスティバル会場に集まり、露店は食べ物や飲み物を求める人たちが賑わいました。

神輿は、御旅所に安置される前に、大勢の担ぎ手によって御旅所の周りを荒々しく3回まわりました。子ども神輿も同様にまわりました。それから玉串奉奠などの神事に移り、最後に巫女舞が奉納されました。神事後の休憩が終わり、行列は静かで少し寂しい笛の音とともに神社へと帰って行きました。



参加した人たちの交流の場になればと、露店近くに飲食コーナーを設けました。露店では生ビールやお茶・ジュース、おでん、アメリカンドッグ、赤崎じゃがいも団子、おにぎり、焼きそば、タコ天が売られました。

(主催：木谷地域まちづくり実行委員会・木谷自治協議会)



部会活動紹介

体育振興部会

種目		得点
グラウンドゴルフ	男子	15
	女子	15
ソフトバレーボール	男子	15
	女子	13
ソフトボール		15
室内ペタンク		15
得点合計		88

9/22 市民スポーツ大会に参加

第36回東広島市民スポーツ大会球技の部が、東広島運動公園体育館など6会場で開催されました。小学校区単位で32チームが参加し木谷チームは88点で20位。6月に実施の陸上の部の94点(16位)を合わせた総合成績は、182点で19位でした。

福祉生活部会



10/9 木谷小でプランターの土の入替え作業

子どもたちが育てるパンジーやビオラ。その苗を植えるプランターを、肥料混じりの土で満たす作業に、学校関係者を含む11名が取り組みました。子どもたちが心を込めて大切に育てている花々は、来春の卒業式で会場を彩ります。

<木谷地区社協 蛟龍>

防災安全部会



10/17 木谷保育所で避難訓練

地震発生の放送や先生の話聞いて、園児たちは机の下に隠れ、防災頭巾を着用して園庭に避難。その後、津波が発生したとの想定で近くの高台に避難する際、防災安全部が避難誘導のお手伝いをしました。



10/22 5年ぶりに集合型の総合防災訓練

大雨の中、安芸津町風早の会場などで、震度6強の巨大地震を想定した防災訓練が行われ、63機関から700名余りが参加。木谷自治協からは5名が参加し、土砂撤去・車外救出・搬送訓練などを行いました。

木谷の人口(住民基本台帳)	世帯数	人口	男	女
令和6年(2024)10月末現在	669	1398	678	720
令和5年(2023)10月末との比較	-15	-25	-19	-6